

地域社会史

地域社会のルーツから現代をフォーカスする

講座内容

わたしたちの身近にある地域社会には、どのような歩みと文化があるのかを垣間見ることで、わたしたちへ何かを語りかけています。今回は、世界的に貿易摩擦(関税問題)で揺れています。貿易(Trade)について考えていきます。黒船来航から開港し貿易がはじまりますが、開港場について視点をあてて、その地域社会の文化や風習から、わたしたちの生活への道標と明日へのヒントを模索していきます。

期 間	5月9日～7月25日	受講料	12,500円
曜 日	土曜日	定 員	20名 ※最少催行人数10名
時 間	10:00～12:00	会 場	関内アカデミック・リサーチセンター
回 数	全5回	持ち物	筆記用具
教 材	講師が配布資料を用意します。		
備 考	●この講座は5月1日(金)までに中止の連絡がなければ開催となります。		

講座スケジュール

回数	日 程	内 容
1	5月 9日 (土)	長崎は今日もトレードだった 長崎は江戸時代から外国との貿易で栄え「和華蘭文化」を形成します。「御老中でも手が出せないのは大奥・長崎・金銀座」といわるまでになりますが、その実態を検証していきます。
2	5月23日 (土)	そして神戸もトレードだった 「平家にあらずんば人にあらず」と栄華を詠ったところから神戸は貿易で栄えた港でした。その変遷を考察します。
3	6月27日 (土)	はるばる来た函館もトレードだった ペリーがはるばる函館へ来た目的は何かを考察していきます。
4	7月11日 (土)	米百俵のころは新潟に生きる 新潟開港の理由は米百俵のころにありました。それは何故かについて考察します。
5	7月25日 (土)	ブルーライトヨコハマは今もまちを照らす 「泰平の眠りを覚ます上喜撰たった四杯で夜も寝られず」といわれた黒船来航を考察します。

講師紹介



加藤 壽宏(かとう としひろ)

本学国際文化学部非常勤講師

主要論文：「日本における公共事業と港湾・空港施設の現状と課題：社会資本整備と財政投融资を中心に」(日本港湾経済学会喜多村賞・奨励賞)、「近代日本経済と横浜港：渋沢栄一を中心に」、「近代日本経済と生野銀山：飾磨(姫路)港を介して見る銀の道」、「海と空の港大辞典」(分担執筆)ほか